

超硬耐摩耗工具・金型のトップシェア 富士ダイスの事業と成長戦略



その感動のウラに、富士ダイス。

2025年10月

本日覚えていただきたい3つのポイント

1. 世界の基幹産業を支えるニッチトップな存在
2. ニッチトップを支える
「開発力」×「技術力」×「営業力」
3. 成長への道筋と株主還元策

01

世界の基幹産業を支えるニッチトップな存在

会社概要（2025年9月現在）

商号	富士ダイス株式会社
所在地	東京都大田区下丸子二丁目17番10号
資本金	164百万円
代表者	代表取締役社長 春田 善和
創業	1949年6月
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場（証券コード：6167 [業種：機械]） 2015年6月東証二部に上場、2017年4月東証一部に市場変更
事業目的	超硬合金製の耐摩耗工具・金型の製造販売
連結子会社	新和ダイス株式会社 富士シャフト株式会社 FUJILLOY (THAILAND) CO., LTD. 富士模具貿易（上海）有限公司 PT. FUJILLOY INDONESIA FUJILLOY INDIA PRIVATE LIMITED FUJILLOY MALAYSIA SDN. BHD.
従業員数	1,090名（2025年3月期末時点、連結）



当社の特長

超硬耐摩耗工具市場で**トップシェア**

国内超硬耐摩耗工具業界では当社は長期に亘り、トップシェアを堅持
多品種少量の高付加価値製品の販売が主で、販売価格は安定して推移

業界シェア
30%以上

長期的成長を担う高い**素材開発力×加工技術力**

粉末冶金技術を活かし、市場ニーズに応える新材料の開発力
新鋭設備研究と加工方法の最適化による匠の技と最新テクノロジーの融合

コア技術
・粉末冶金技術
・超精密加工技術

開発力-技術力-営業力が競争力の源泉

お客さまの個別ニーズをカスタマイズできる直販体制
幅広い業種との安定かつ多くのお客さまとの取引実績
設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査までの一貫生産体制

取引社数
約3,000社
(グループ連結)

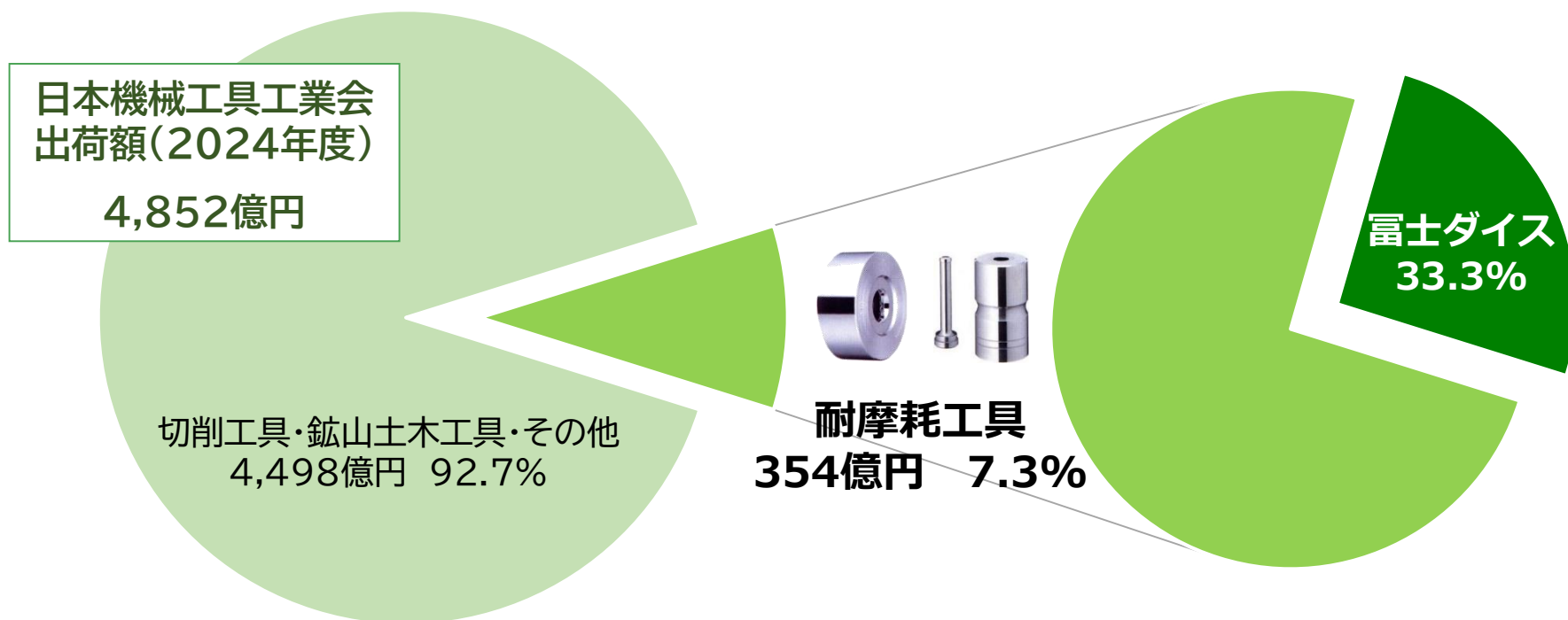
財務基盤：黒字経営を継続し、高い**自己資本比率**を維持

ネットキャッシュ 7,917百万円
フリーキャッシュフロー 951百万円

自己資本比率
80.4%
(2025年6月末時点)

(2025年3月末)

超硬工具の国内市場規模（日本機械工具工業会調べ）

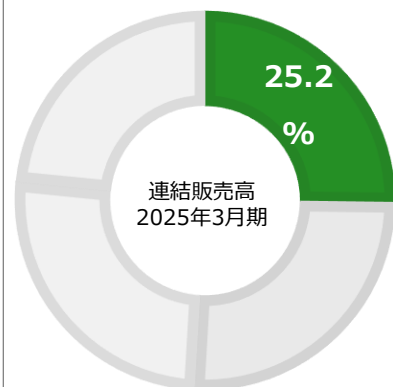


耐摩耗工具において、長年に亘ってトップシェアを堅持
当社の超硬工具の売上 117億円 (119億円/2023年度)

事業内容 製品区分

■ 超硬合金製を中心とした工具・金型（耐摩耗工具）製造に特化

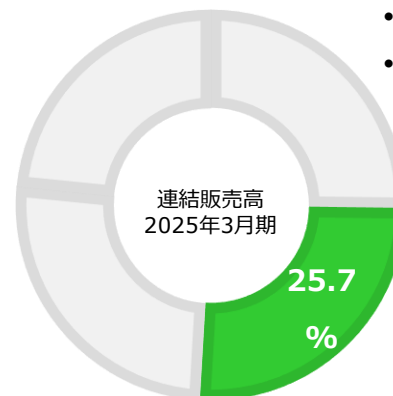
超硬製工具類



- ・ ダイス、プラグ
- ・ 溝付きプラグ
- ・ 熱間圧延ロール
- ・ 超高压発生用工具 等



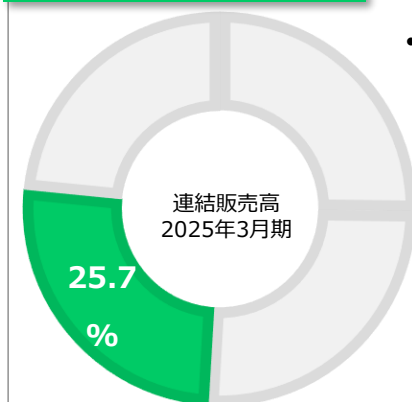
超硬製金型類



- ・ 自動車部品製造用
- ・ 製缶用
- ・ 電池関連用 等



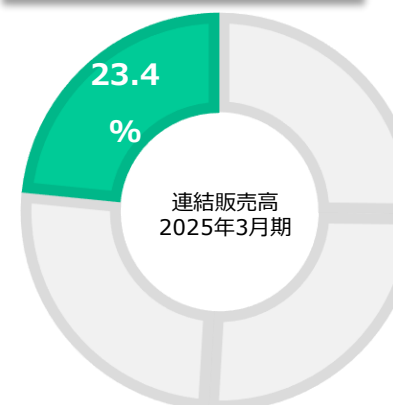
その他の超硬製品



- ・ 超硬合金素材
- ・ 半導体製造装置用部品 等



超硬以外



- ・ 鋼製品
- ・ KF2製品
- ・ セラミックス製品
- ・ ダイヤモンド研削砥石
- ・ FHR製品
- ・ 銅タン
- ・ NFメタル
- ・ 引抜鋼管 等



ものづくりを支える富士ダイスの製品



上記以外にも、富士ダイスの製品は、鉄道架線・電線などのインフラ設備、人工ダイヤモンドの製造や新素材の開発など、様々なシーンでもものづくりを支えている

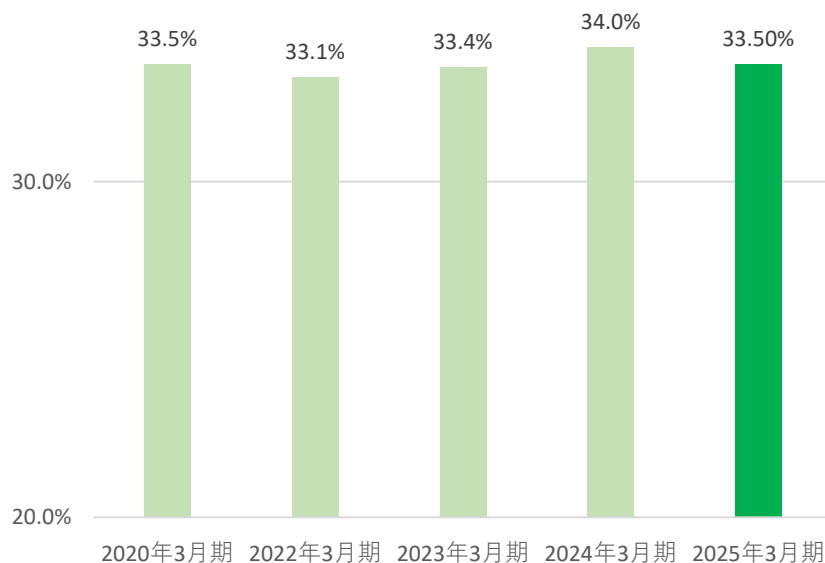
02

ニッチトップを支える
「開発力」×「技術力」×「営業力」

耐摩耗工具専門国内トップメーカー

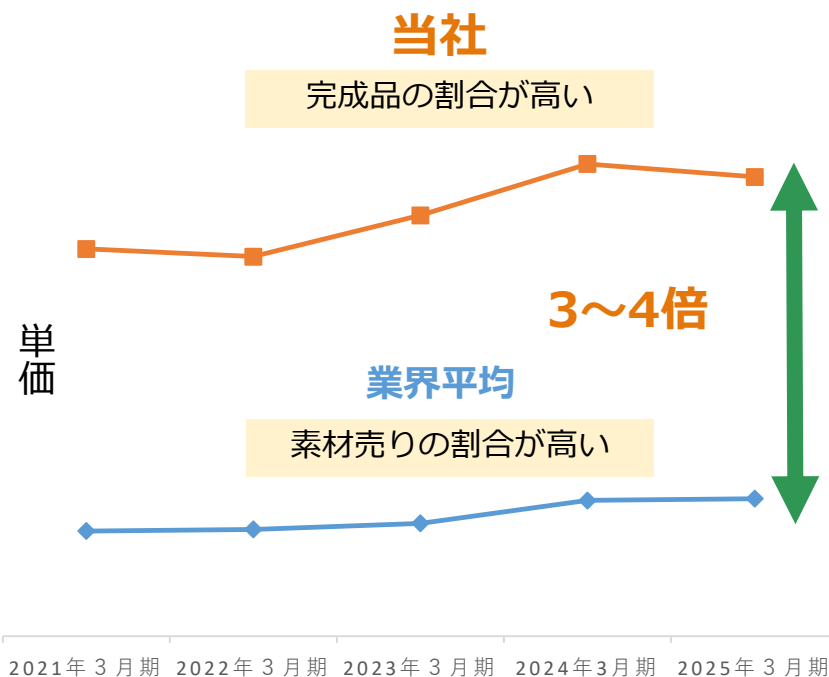
国内超硬耐摩耗工具業界で当社は**長期に亘り、トップシェア（30%超）**を堅持
少量多品種の**高付加価値製品**の販売が主で、販売価格は**安定して推移**

超硬耐摩耗工具・国内出荷額シェアの推移



※2021年3月期は新型コロナウイルスの影響が大きいため除外

製品の平均単価の推移



出所：日本機械工具工業会

一貫生産体制により様々なオーダーに対応

- 設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査まで一貫した受注生産体制
- 2つのコア技術、高度な粉末冶金技術と超精密加工技術により様々なオーダーに対し柔軟に対応が可能（多品種・少量生産）



高い評価を受ける素材開発力・加工技術力

2023年 第66回十大新製品賞 において 「モノづくり賞」を受賞

- 「高熱膨張ガラス成形用新硬質材料【フジロTR05】」が、日刊工業新聞社主催の「2023年 第66回十大新製品賞」において「モノづくり賞」を受賞。
- 日本機械工具工業会主催の「2023年度日本機械工具工業賞」における「技術功績大賞」に続く受賞となった。



「2024年度 (第8回) 精密工学会 ものづくり賞」において 「最優秀賞」を受賞

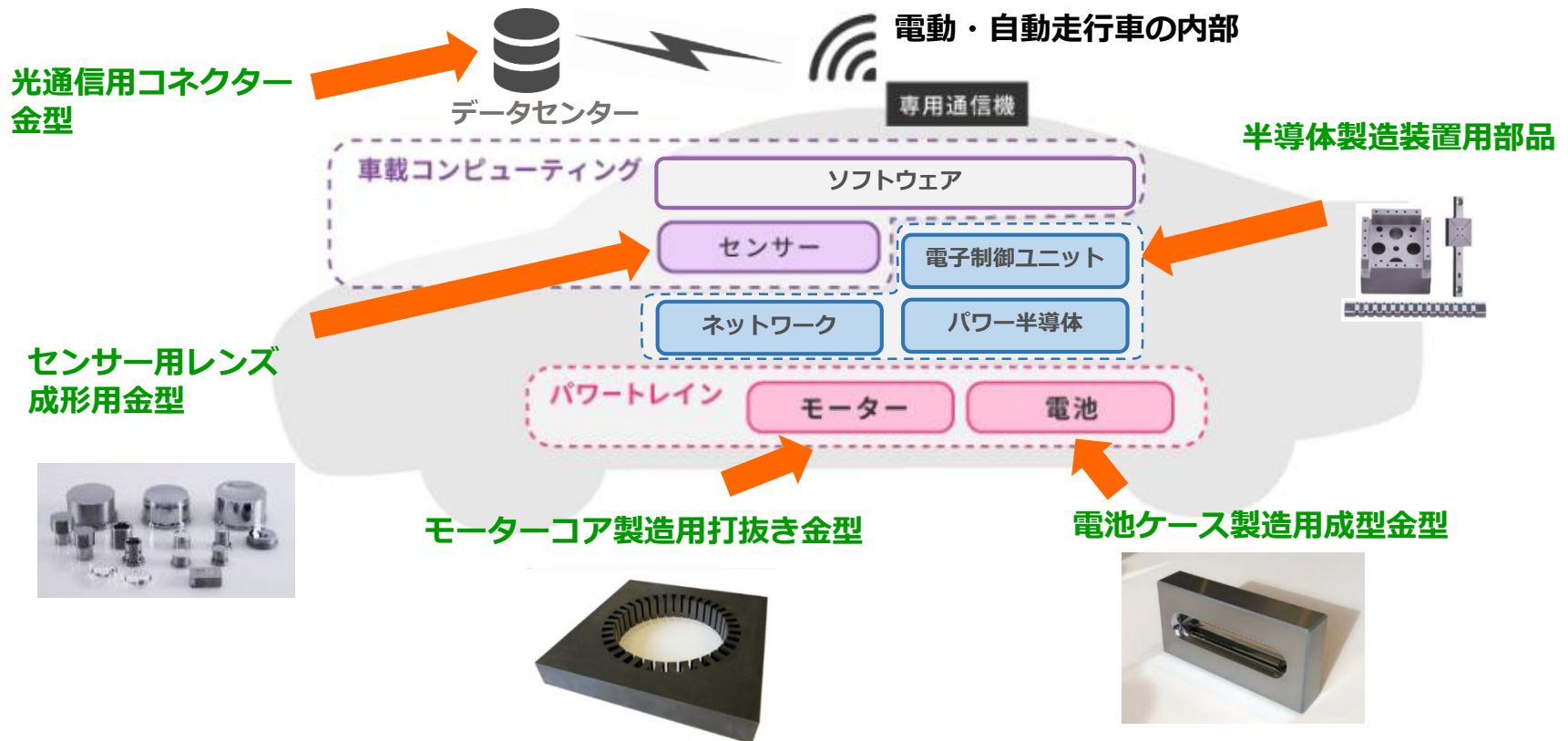
- 【フジロイ TR05/TR30】の開発および超精密加工技術の確立が評価され公益社団法人精密工学会主催の「2024年度 (第8回) 精密工学会ものづくり賞」において「最優秀賞」を受賞。
- 「2023年度日本機械工具工業会賞」における「技術功績大賞」、「2023年 第66回十大新製品賞」における「モノづくり賞」に続き、**3度目の受賞**となった。



成長分野と富士ダイスの関係

次世代自動車・半導体・光通信

自動運転向けセンサー用光学部品、次世代光通信分野、半導体製造装置分野に、
当社の工具・金型・素材が貢献



電動・自動走行車の内部 図の引用元：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）のホームページ

成長分野と富士ダイスの関係～次世代光通信～

光通信用向け高精度コネクタ金型・ガラス成型用金型

「ファイバーアレイ」「マイクロレンズアレイ」などの超精密コネクタ金型や、フォトリソ用ガラス成型用金型を開発

市場投入フェーズ

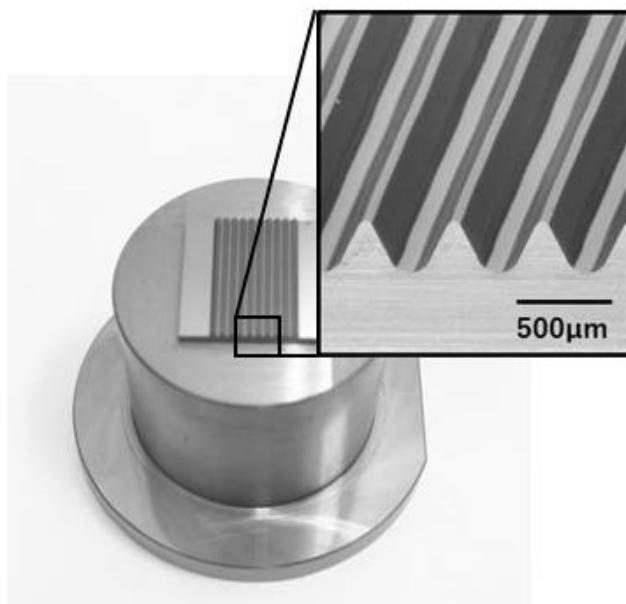
開発開始

客先評価中

- 最先端の超精密加工技術により寸法精度 $0.1\mu\text{m}$ 以下※¹の「ファイバーアレイ」「マイクロレンズアレイ」などの金型製作が可能
- 高精度測定機により超精密・微細加工後の品質保証が可能

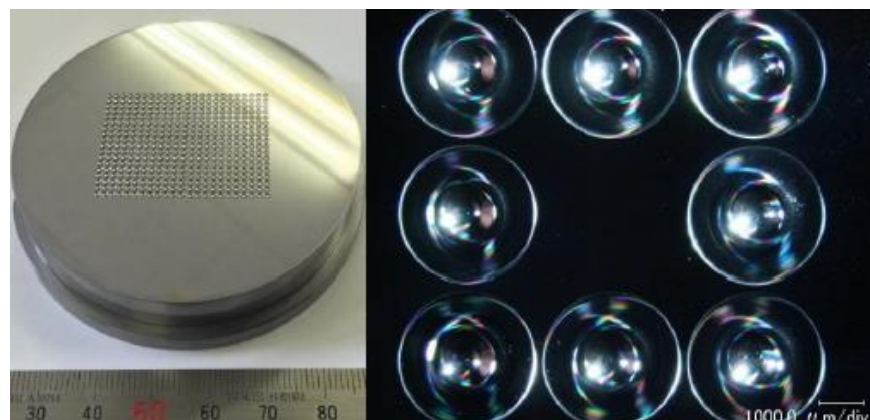
※¹ 寸法精度 $0.1\mu\text{m}$ とは？

髪の毛の1000分の1のズレも許されないレベルの加工精度



ファイバーアレイ※²

※² 光ファイバーと光学部品を接続するコネクタ



マイクロレンズアレイ

ガラス成型用の金型

成長分野と富士ダイスの関係～次世代エネルギー～

水素発生用触媒・電極(PME)

需要の拡大が予想されるグリーン水素製造装置向けニッケル製電極(PME※)を開発

※Powder Metallurgy Electrode (触媒を含有した電極)

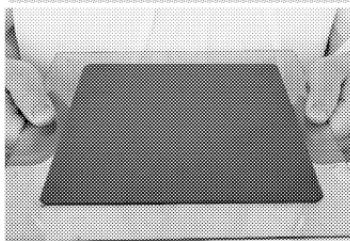
市場投入フェーズ

開発開始

客先評価中

- 水の電気分解による水素製造の際、必要な消費電力を従来比20%削減。
- 触媒はカルシウム、銅及び鉄の酸化物（貴金属フリー）。

富士ダイスがニッケル電極



富士ダイスが開発したグリーン水素向け電極

装置向け27年商品化

グリーン水素 電力抑え製造

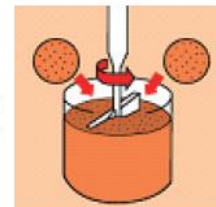
富士ダイスは、水素を製造する際に電圧を従来比20%削減するニッケル製の電極を開発した。電力の低減を抑えられ、また貴金属を使用しないために環境負荷が低いという。主力事業の超硬合金製造の粉末冶金技術などを応用した、再生可能エネルギー電力を使った水の電気分解によるグリーン水素の製造装置向けに、2027年までの商品化を目指す。

国内海外カーボンニュートラル(CN)、温室効果ガス(GHG)排出量削減(RO)に向けた投資が加速している。化石燃料から脱炭素のエネルギーへの転換が見込まれる中、グリーン水素はCNの有力技術になると目されている。

【2024年11月5日付「日刊工業新聞」】



超高压合成技術
(触媒開発)

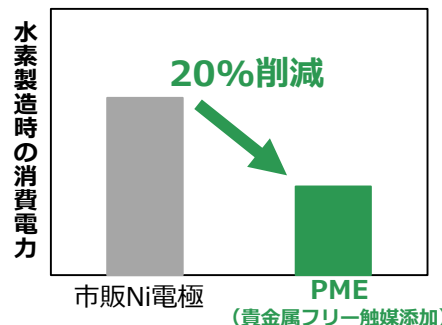


粉末冶金技術
(電極化)



高性能電極
(PME)

PMEの使用で、水素製造に必要な消費電力を削減



03

成長への道筋と株主還元

中期経営計画2026（2025年3月期-2027年3月期）：重要施策

変化に対応できる企業体質への転換

①経営基盤の強化

サステナビリティ経営とDX化を軸に組織力を高め、経営判断を迅速化

②生産性向上・業務効率化

各部門における自動化・省力化、DX化等による業務効率化を推進

③海外事業の飛躍

海外子会社と日本からの直接輸出の両輪で海外売上拡大を図る
アジア地域でのシェア拡大に加え、北米/インドにおける市場開拓を促進

④脱炭素・循環型社会への貢献

脱炭素・循環型社会の形成に貢献する製品を積極的に開発・市場投入

⑤新規事業の確立

100年企業を目指し、新規事業の専門組織を立ち上げ、新事業シーズの事業化を加速

既存事業領域

新規事業領域

利益率向上

売上拡大

国内事業は成長の基盤（安定的に成長）、成長を牽引するのは海外事業
将来の成長基盤の育成として新事業の実現という方向性

重要施策 ①経営基盤の強化

2025年7月1日に、100年企業を目指して、グループ企業理念を見直し
ビジョンを新たに策定

FUJILLOY

企業理念

社員一人ひとりの幸せを尊重し、
事業を通じて広く社会に貢献する。

ビジョン

人と素材と技術の力で「感動体験」を。

行動指針

誠実 相手の立場で考え抜こう

好奇心 常識にとらわれない、ユニークな視点を持とう

スピード 速やかに行動し続けよう

挑戦 一人ひとりの小さな挑戦で、大きな変化を生み出そう

一体感 感謝の気持ちを大切に、チームワークを高めよう



FUJILLOY

超硬耐摩耗工具メーカー から

世の中に「感動体験」を増やす企業 へ



重要施策 ②生産性向上・業務効率化

初年度（2025年3月期）の進捗

郡山製造所

- 研削加工作業に自動化ロボットを導入・本格稼働、産出量が10%向上
- 冶金工程の自動化ロボットが対応できる製品の範囲を広げる改修を実施

熊本製造所

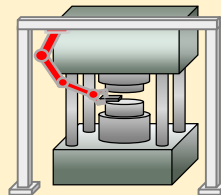
- 冶金工程にCAD・CAMを駆使したNC加工機による自動加工ラインを導入、自動加工に約60%を移管
- 部品どりを最適化するCAD・CAMの自動ネスティングの2025年度導入に向けたテストを実施

2026年3月期の自動化導入計画

自動化推進に1億6000万円投資、効果測定結果を踏まえてさらなる投資も予定

郡山製造所

- 冶金工程の粉末成形プレス機にロボットアームを追加、焼結用カーボンケースへの充填作業を自動化



熊本製造所

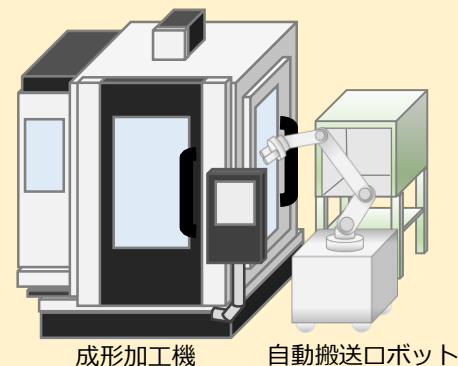
- 部品どりを最適化するCAD・CAMの自動ネスティングを本格導入
- 冶金工程の成形加工機に自動搬送ロボットを追加導入

岡山製造所

- 自動床洗浄ロボットを試験導入（2025年5月）

秦野工場

- 研削加工作業に自動化ロボットを導入
- プラグ製作工程に自動ろう付機を導入



重要施策 ③海外事業の飛躍

中国

富士模具：販売拠点

初年度（2025年3月期）の進捗

東莞の新拠点を足掛かりに、光学機器関連の新規顧客開拓に成功、販売を拡大

2026年3月期の取り組み

さらなる知名度向上でNEV関連メーカーへの新規拡販強化

アセアン

Fujilloy Thailand：生産/販売拠点

Fujilloy Indonesia：生産/販売拠点

Fujilloy Malaysia：販売拠点

初年度（2025年3月期）の進捗

タイは、生産性が向上、輸送機器以外の製品群も拡張
インドネシアは、外資系企業との取引が拡大
マレーシアは、クアラルンプールの営業活動を強化

2026年3月期の取り組み

メインの自動車関連や半導体関連・電池関連の深耕
他業種もターゲットに外資系企業への拡販を推進

北米

初年度（2025年3月期）の進捗

展示会に初出展、市場調査を推進

2026年3月期の取り組み

北米での知名度向上を図り、潜在需要獲得のため新規拡販活動を継続

インド

初年度（2025年3月期）の進捗

事業再開に向け展示会に初出展、市場調査を強化
輸出ベースでの出荷額が過去3年間で大幅に増加

2026年3月期の取り組み

事業再開プロジェクトを始動
（2025年7月）

2027年3月期

目標海外売上比率：25%以上

2025年3月期 海外売上比率：19.5%
前期比0.8%UP

重要施策④ 脱炭素・循環型社会への貢献

脱炭素・循環型社会の形成に貢献する製品を積極的に開発・市場投入

次世代自動車



二次電池用工具・金型



モーターコア用
金型材種

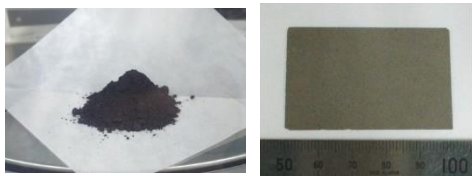
JIMTOF2024 (2024年11月)
モーターコア金型向け新材種
【フジロイ VG51】を発表

リサイクル



新規事業開発で
事業化を検討中

次世代エネルギー



CO2還元用触媒 水素発生用触媒・電極
など

JIMTOF2024 (2024年11月)
新製品「グリーン水素向け電極」を発表

粉末冶金
技術

超硬合金

W合金

Cu-W合金

セラミックス

高熱膨張
合金

触媒

特殊循環用
摺動材

省W・Co
合金

省資源



省タングステン・コバルト合金

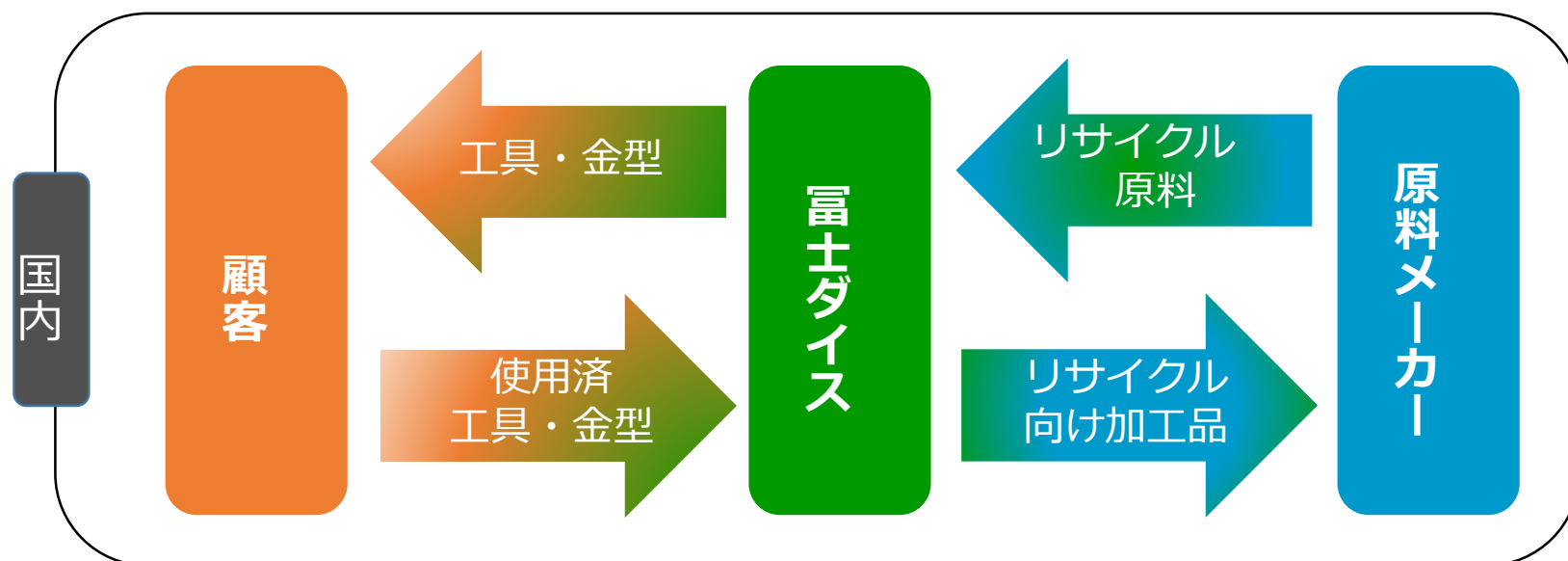
重要施策⑤ 新規事業の確立

初年度（2025年3月期）の進捗

- 新規事業組織を発足（2024年7月）
- 新規事業の早期実現に向けたM&A、業務提携の実施を検討
- 超硬耐摩耗工具・金型のリサイクル事業の立ち上げに向けて、スキームを検討

超硬耐摩耗工具・金型のリサイクル

- 顧客網を活用し、超硬耐摩耗工具・金型の国内循環型リサイクルの実現を目指す
- 限りあるレアメタルを有効活用し、原料調達リスクを低減



2026年3月期 業績見通し

- 売上高は自動車部品関連金型の回復に伴う需要増、新拠点の東莞を足掛かりにした中国での販売拡大を見込む。
- 営業利益は人件費増加や原材料費の増加はあるが、売上高の増加により対前年比22.9%増の6.0億円を見込む。

営業利益
6.0億円
(前期比22.9%増)

(単位：百万円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 2Q業績予想	2026年3月期 業績予想	期末における 前期増減	期末における 前期増減率
売上高	16,595	8,720	17,670	1,075	6.5%
営業利益	488	220	600	112	22.9%
(営業利益率)	(2.9%)	(2.5%)	(3.3%)	(0.4%)	
経常利益	603	270	700	97	16.1%
(経常利益率)	(3.6%)	(3.0%)	(3.9%)	(0.3%)	
親会社株主に帰属する 四半期／当期純利益	426	170	460	34	8.0%
1株当たり 当期純利益	21.42円	8.55円	23.12円	1.70円	-
一株当たり配当額	40.0円	-	40.0円	0.0円	-
DOE	3.8%	-	3.9%	0.1%	-

【2026年3月期 利益予想の前提条件】

①APT(パラタングステン酸アンモニウム) 価格：375ドル/10kg ②為替：145円/米ドル

中期経営計画2026 連結数値目標

【2027年3月期における連結数値目標】

連結売上高
200億円

営業利益
20億円

経常利益率
10.5%
(経常利益 21億円)

ROE
7.0%

	2025年3月期 実績	2026年3月期 業績予想	2027年3月期 目標
売上高	165億円	176億円	200億円
営業利益	4.8億円	6.0億円	20.0億円
経常利益	6.0億円	7.0億円	21.0億円
経常利益率	3.6%	3.9%	10.5%
当期純利益	4.2億円	4.6億円	15.0億円
ROE	2.1%	2.2%	7.0%

(2027年3月期の目標値は、米国関税政策による影響などが不透明なため変更なし)

2026年3月期 株主還元・配当

自己株式の取得を2025年8月12日に公表

資本効率の向上と株主への利益還元および将来の機動的な資本政策を可能とするため、業績・資本の状況、成長投資の機会、株価を含む市場・業界環境の変化を考慮しながら機動的に実施。

自己株式取得の内容

- | | |
|----------------|--|
| (1) 取得する株式の種類 | 当社普通株式 |
| (2) 取得する株式の総数 | 40万株（上限）
（発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合2.0%） |
| (3) 株式の取得価額の総額 | 3億円（上限） |
| (4) 取得期間 | 2025年8月18日から2025年12月23日まで |
| (5) 取得方法 | 東京証券取引所における市場買付 |

自己株式取得の状況 8月末現在

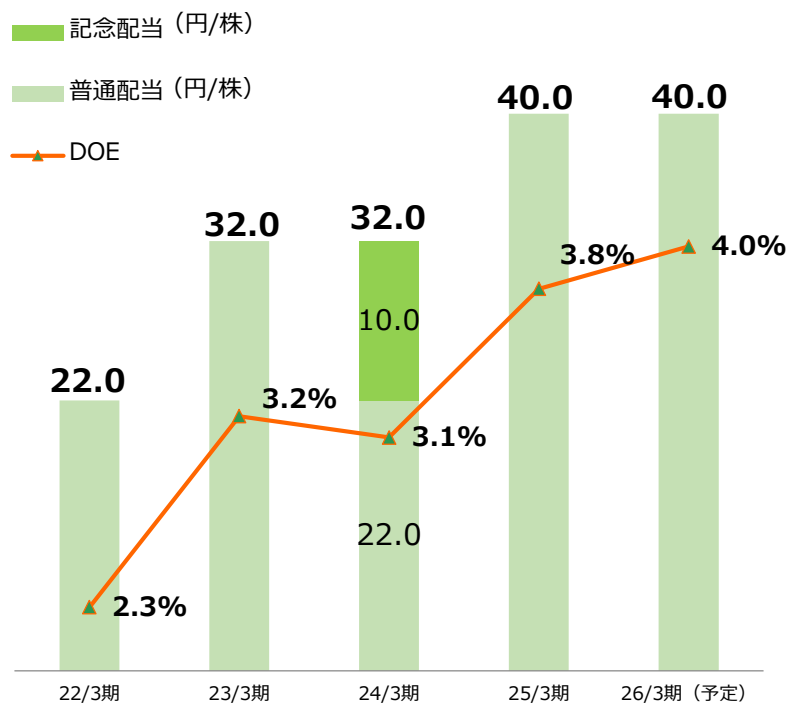
- | | |
|----------------|------------------------------|
| (1) 取得する株式の種類 | 当社普通株式 |
| (2) 取得した株式の総数 | 48,000株 |
| (3) 株式の取得価額の総額 | 41,649,100円 |
| (4) 取得期間 | 2025年8月18日～2025年8月29日（約定ベース） |
| (5) 取得方法 | 東京証券取引所における市場買付 |

2026年3月期 株主還元・配当

2026年3月期は1株当たり40円を計画

年間配当金
40円

- 2027年3月期までの中期経営計画期間中は、配当の基準を従来の配当性向から株主資本配当率（DOE）に変更するとともにDOEの目標値を4%目途に変更
- 2026年3月期の配当は前期の配当と同額の一株当たり40円を計画



株価の動き

【2025年3月31日時点】

株価	754円
配当利回り	5.31%
時価総額	150億円
PBR	約0.72倍



2025年8月12日に自己株式の
取得を公表

【2025年9月30日時点】

株価	852円
配当利回り	4.69%
時価総額	170億円
PBR	約0.85倍※

株価
13%
アップ

※2026年3月期第1四半期の純資産額で計算

当社コーポレートサイト「投資家情報」ページのご紹介

当社コーポレートサイト「投資家情報」ページに業績ハイライトや開示資料を掲載



当社コーポレートサイト

<https://www.fujidie.co.jp/>



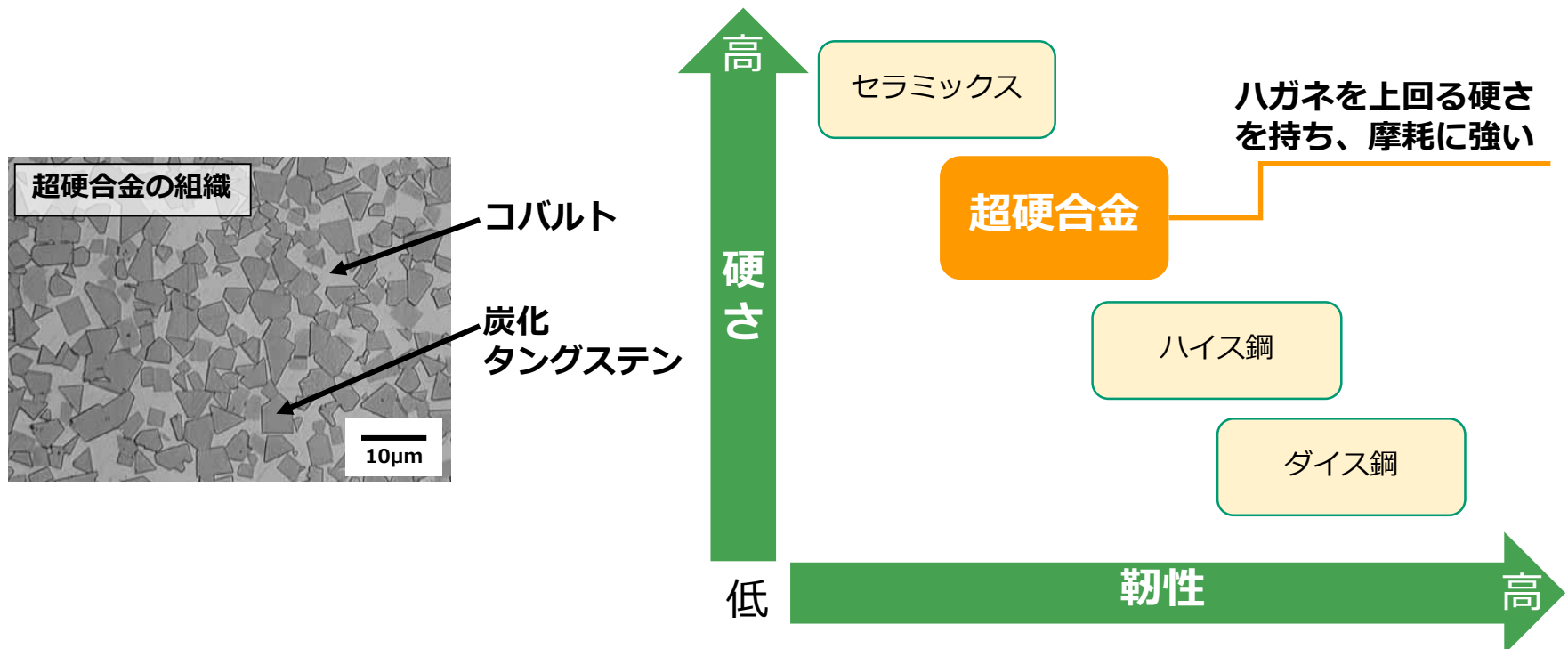
ぜひ、ご高覧ください

04

APPENDIX

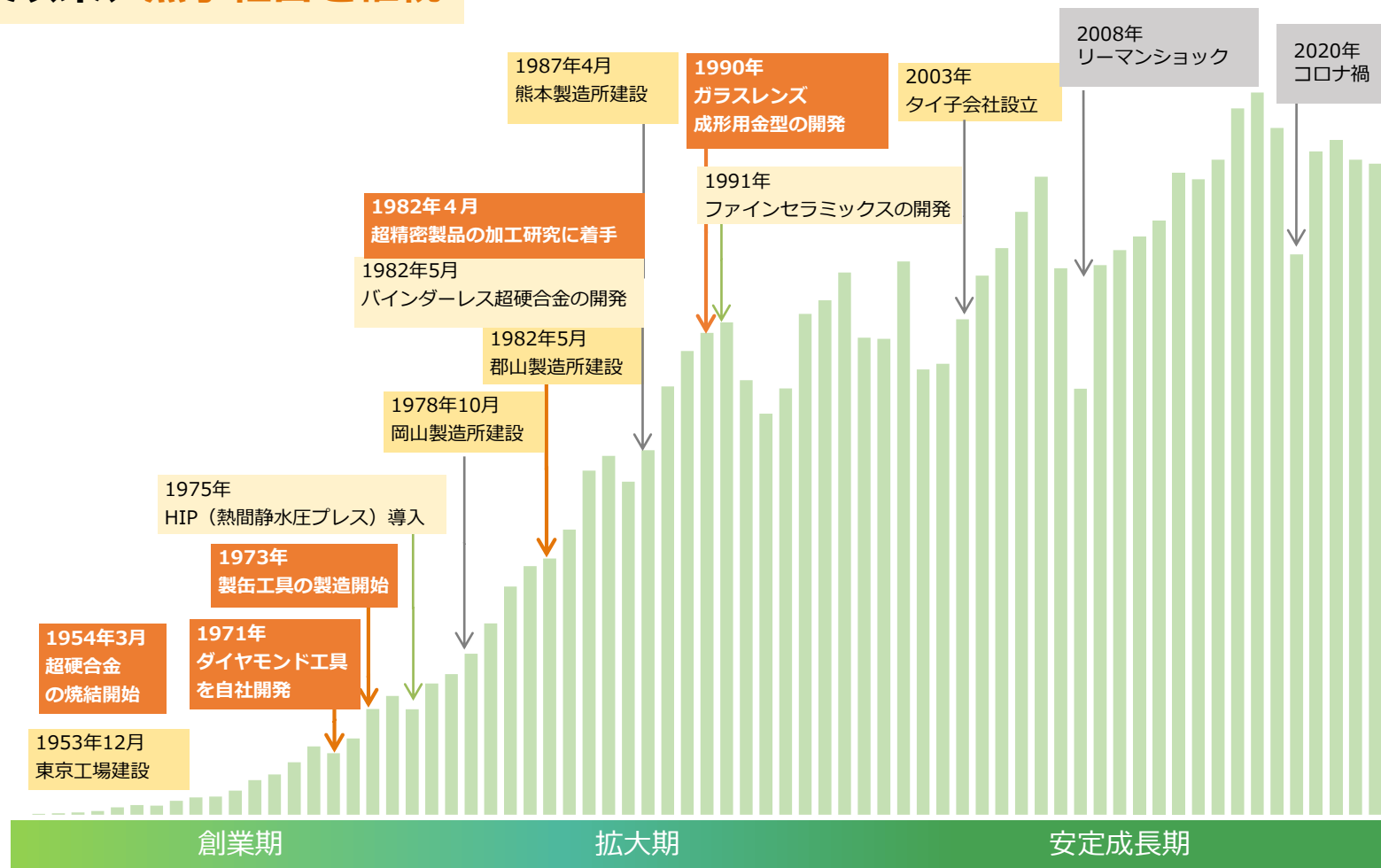
超硬合金とは

- 炭化タングステンなどの**硬質炭化物**とコバルトなどの**金属**を組み合わせた**金属材料**
- ステンレスや鋼鉄を凌ぐ**硬さ**を誇り、**圧縮強さ**、**耐摩耗性**に優れる
- **変形しにくく**、高い精度が求められる**金型**や**工具の材料**として適している
- 金属の粉末を型に入れ圧縮して成型し、融点より低い温度で長時間焼いて固める「**粉末冶金法**」で製造される



主な沿革と売上高推移

創業以来、黒字経営を継続

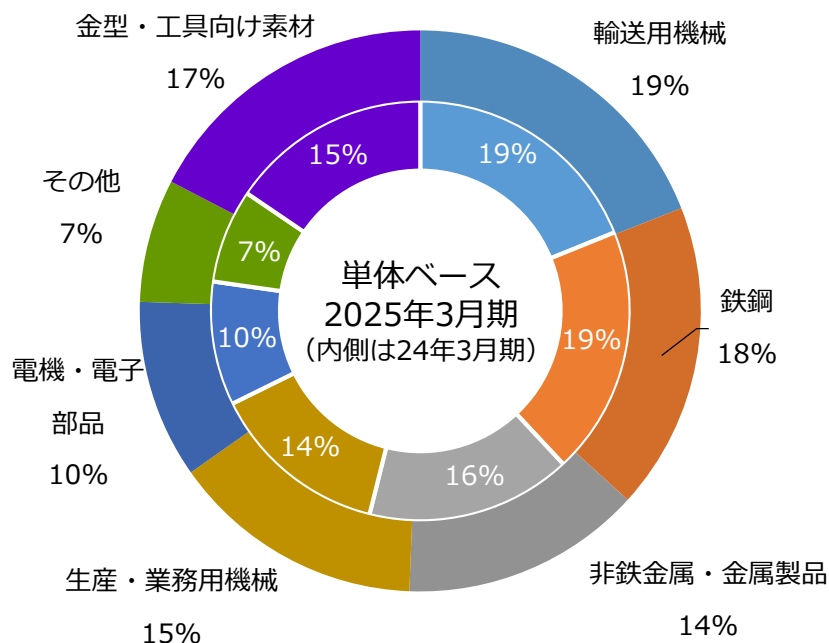


(注) 2012年度以降は連結売上高

受注生産・直販体制、取引先は約3千社に上る

少量多品種の顧客毎の**カスタムメイド**の受注生産・直接販売を行う
顧客との強固なネットワークにより、取引社数は**約3千社**、業種も幅広い
特定の**業界動向**に影響されない**安定性**が強み

【顧客産業分類区分売上構成(%)】



【営業・生産拠点（2025年3月末時点）】

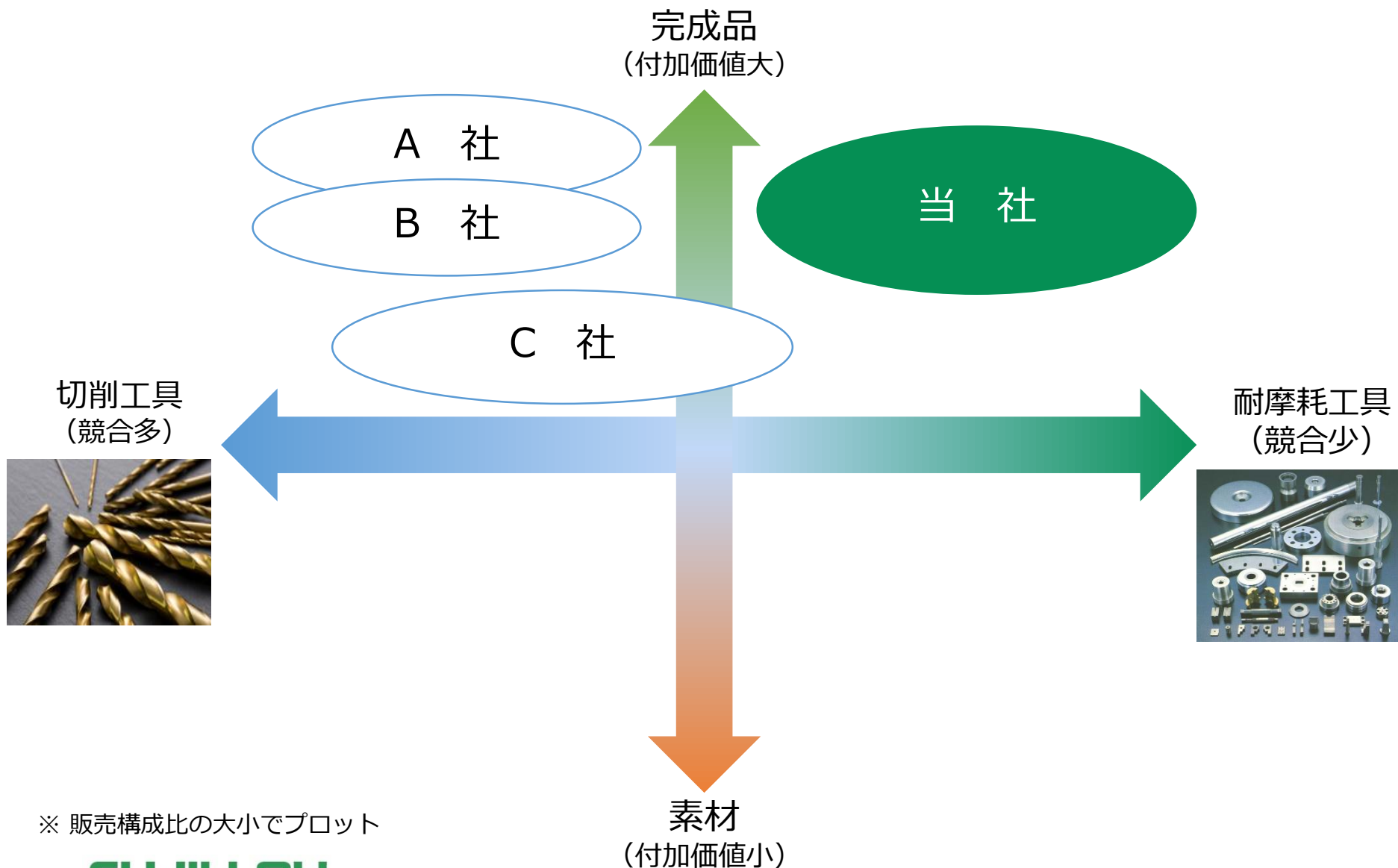
【国内】

●生産・営業拠点	5ヶ所
●生産拠点	2ヶ所
●営業拠点	5ヶ所

【海外】

●生産・営業拠点	2ヶ国
タイ・インドネシア	
●営業拠点	3ヶ国
中国・マレーシア・インド（休眠中）	

工具業界 ポジショニングマップ（上場企業）



※ 販売構成比の大小でプロット

FUJILLOY

Copyright © Fuji Die Co., Ltd. All Rights Reserved.

代表的な製品例

引抜・押出・圧延加工をする工具

輸送用機械、建築材料やインフラ関連の設備等へ使用

当社製品



ダイス・プラグ



ロール

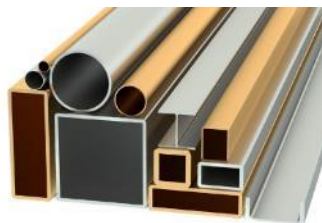
成形部材



パイプ



線材



異形管

最終製品例



エアコンなどの家電



飛行機などの輸送機器



鉄道架線・電線など
インフラ設備

代表的な製品例

飲料缶・一般食缶を製造する工具・金型

アルコール飲料や清涼飲料等の飲料缶を作る金型

光学素子を製造する金型

一眼レフ・通信用・監視カメラ・自動運転用カメラセンサーのレンズを生産する金型

当社製品



製缶工具

最終製品例



飲料缶・一般食缶

当社製品



ガラスレンズ成形用金型

最終製品例



監視カメラ



カメラレンズ



自動運転用カメラセンサー

代表的な製品例

鍛造用工具・金型

二輪車や四輪車、各種製造機械等の部品を作る金型

高圧工具

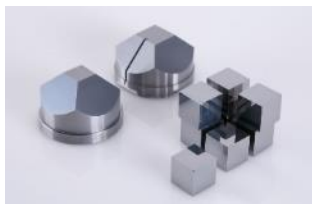
人工ダイヤモンドの製造、新たな素材の開発、地球の内部環境研究に用いる工具

当社製品



鍛造金型

当社製品



高圧工具

最終製品例



自動車・各種機械用部品

最終製品例



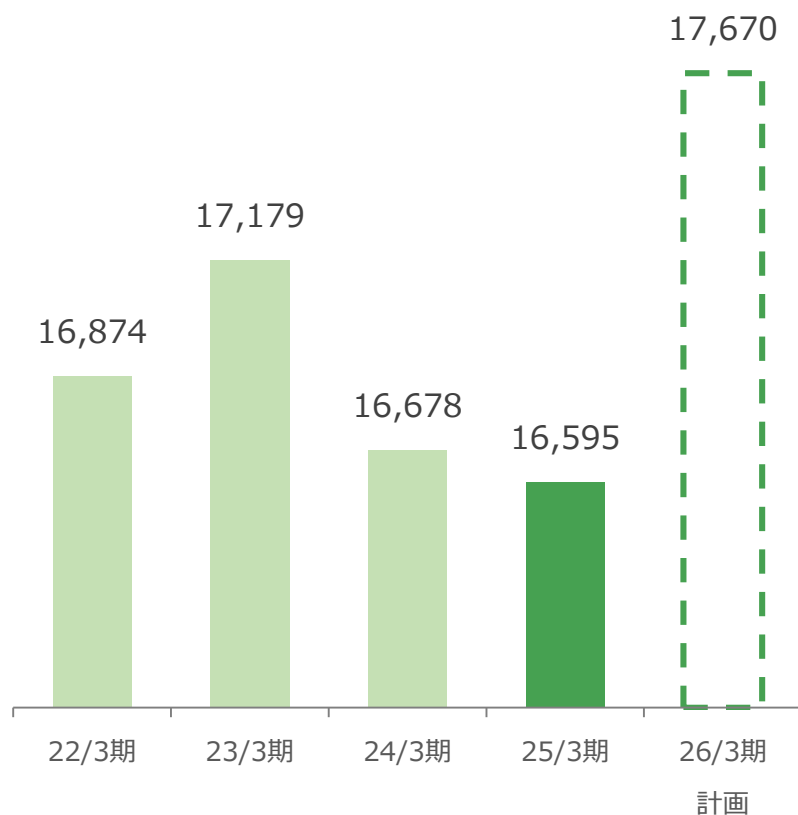
人工ダイヤモンド・
新素材開発

地球物理学研究

業績の推移 1/3

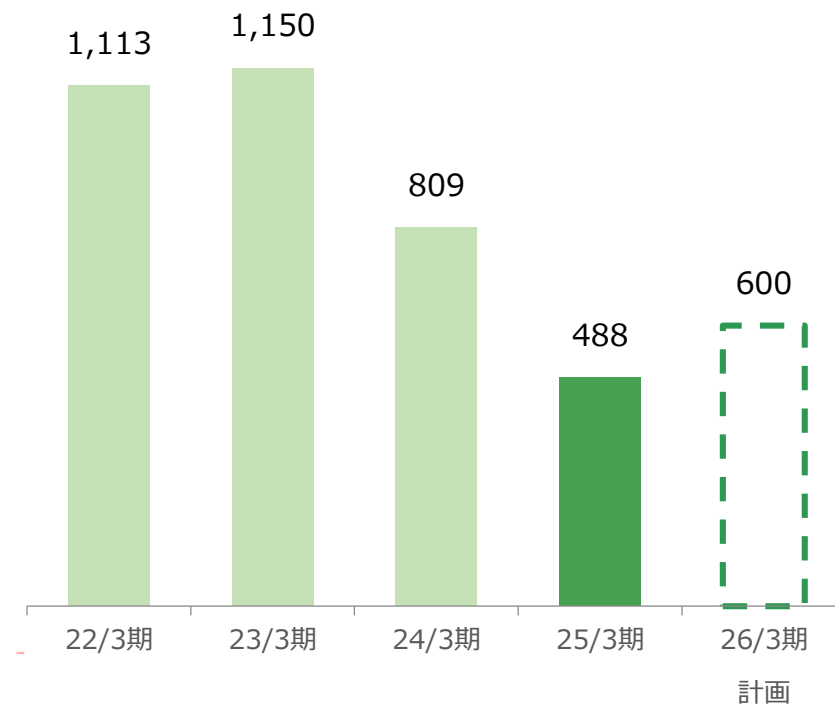
売上高

(百万円)



営業利益

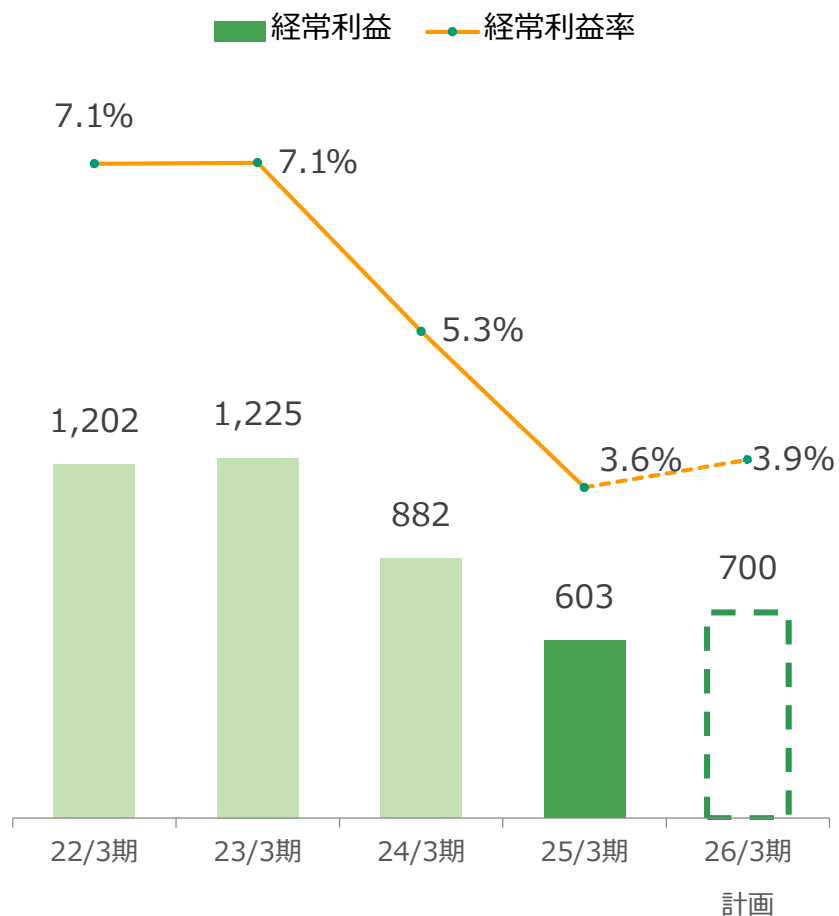
(百万円)



業績の推移 2/3

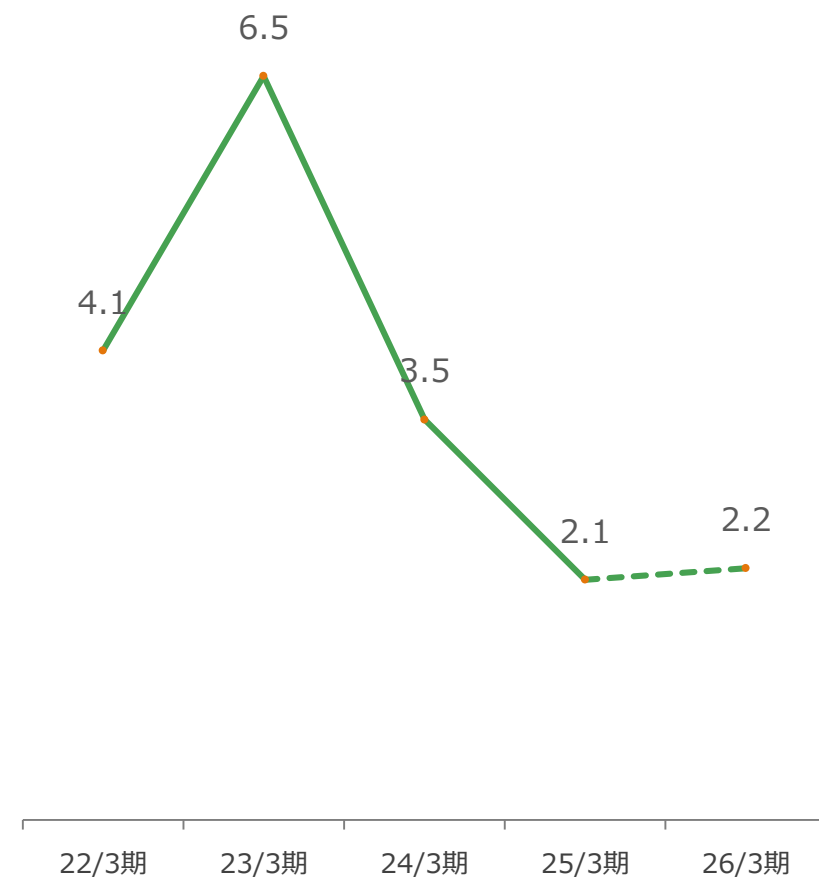
経常利益

(百万円)



ROE

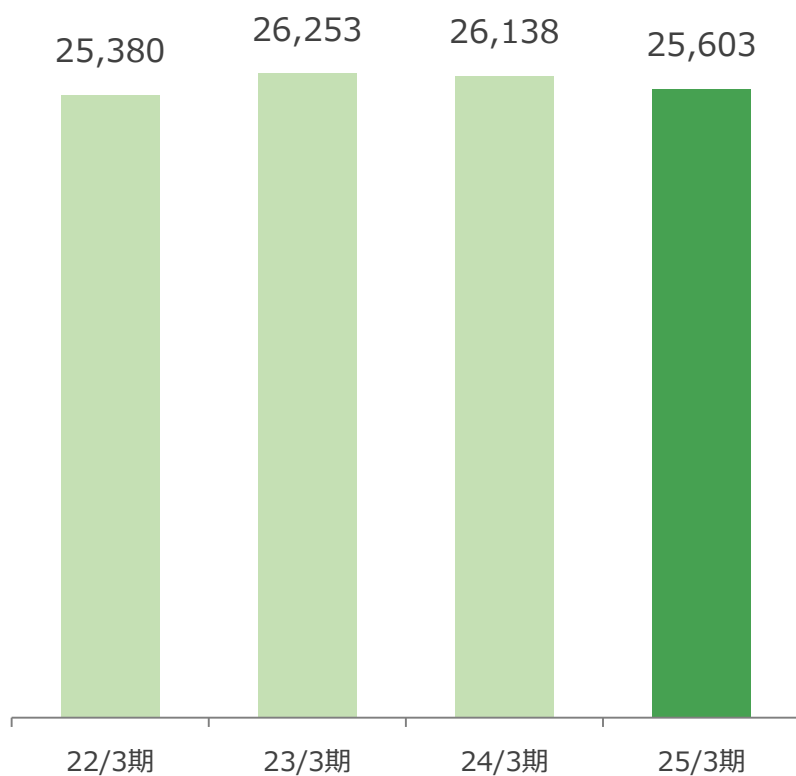
(%)



業績の推移 3/3

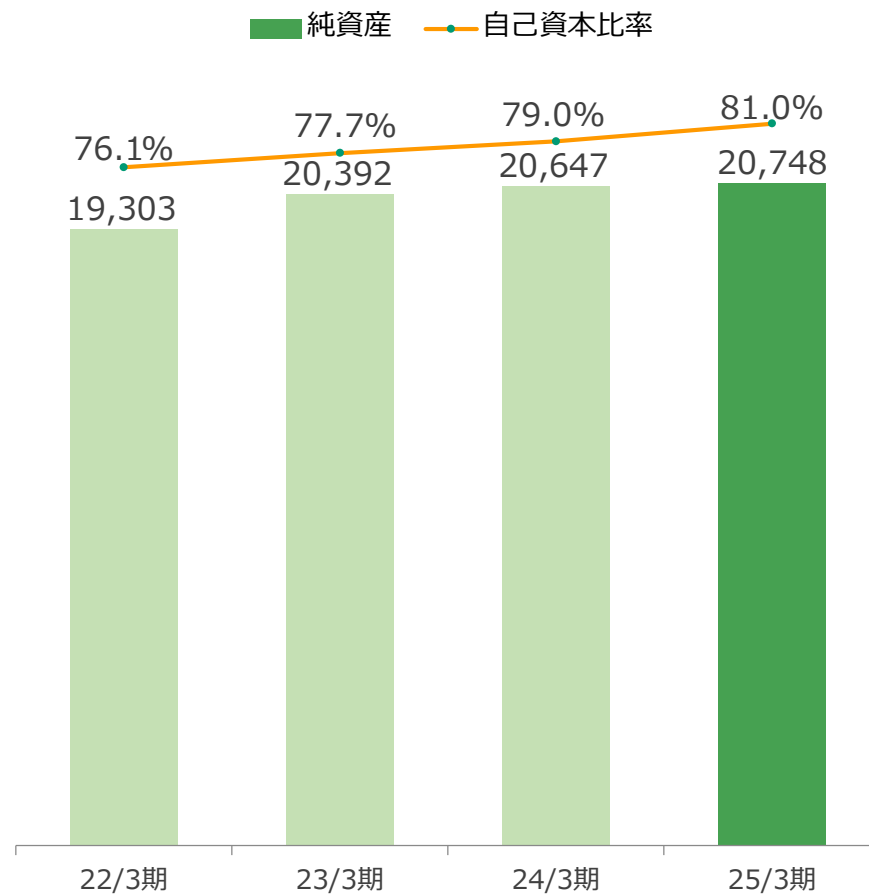
総資産

(百万円)



純資産

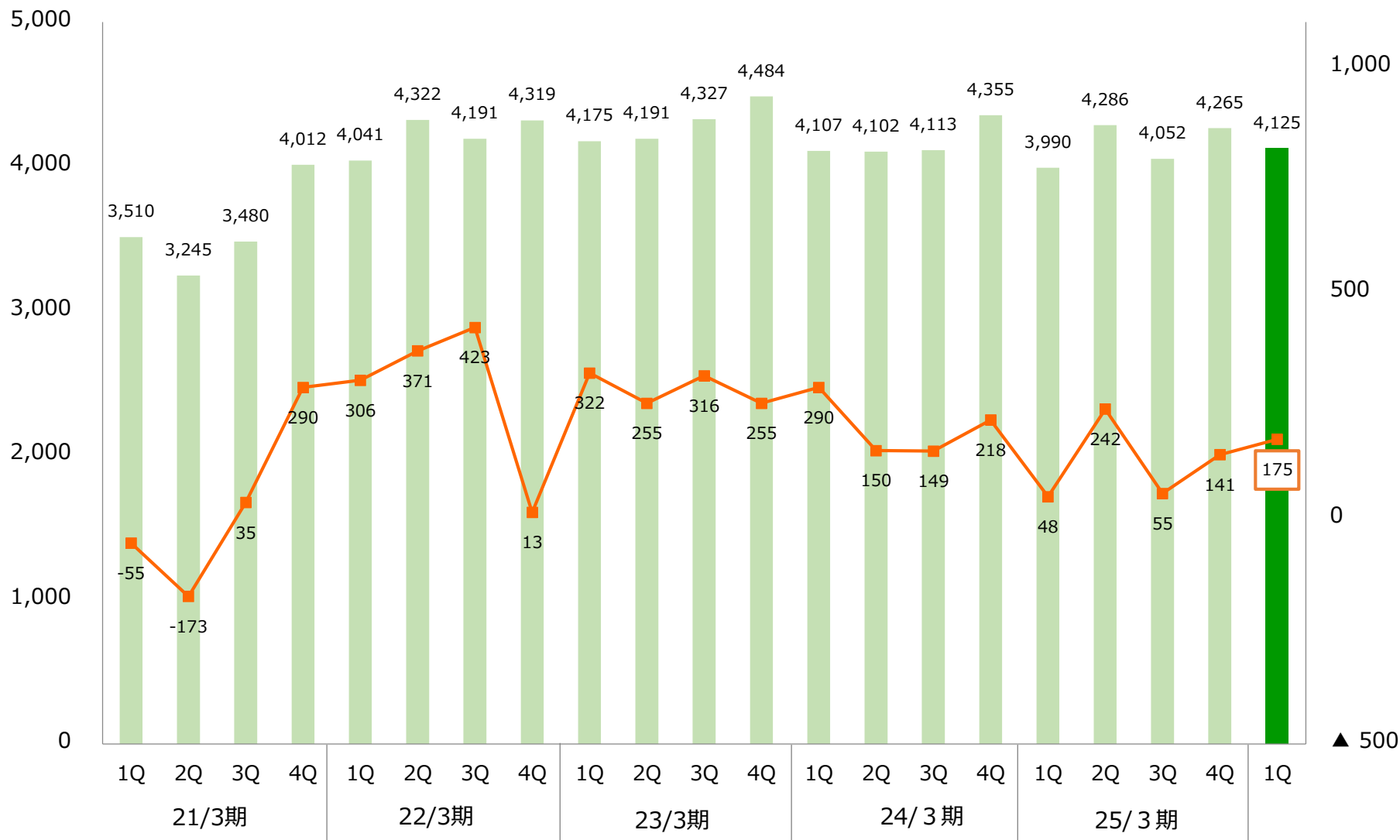
(百万円)



連結四半期業績推移

売上高 営業利益

(単位：百万円)



免責事項について

当資料は、富士ダイス株式会社の現状をご理解いただくことを目的として、作成したものです。当資料に記載した内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成しており、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。

また、当資料には見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものがあり、当資料に記述されている内容とは異なる結果を生ずる不確実性（市場、金利、為替の変動といった国内外の経済状況等）が含まれております。今後、新たな情報や出来事等が発生した場合、当社は本資料の更新・修正を行う義務を負うものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

尚、情報の掲載には細心の注意を払っておりますが、情報の誤りや改ざん、データのダウンロード等で被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。